

◇1997年度 浦野環境教育奨励金 活動報告

大気環境調査を通しての 環境教育の実践

北淡町立北淡西中学校 古川英治

1. はじめに

淡路島は平成10年春明石大橋が開通し、本州-淡路島-四国が一本の縦貫道でつながった。それにより淡路島の自動車の交通量はかつてないほど激増し、今まで経験したことのなかった交通渋滞や交通事故が多発している。また縦貫道沿いの大気の汚れは心配されるところである。

そこで北淡西中学校の選択理科では平成9年度より本年度にかけて縦貫道沿いの大気調査を実施し、人間活動が自然に及ぼす影響や変化を通して環境教育の実践を進めている。

2. ねらい

- (1) 自らの関心・意欲・態度を生かして自分たちで考えたテーマに基づいて町の自然・環境を調べることができる。
- (2) 町の大気調査を通して分かったことをまとめ、考察をしテーマにもとづいて発表ができる。
- (3) 大気の汚れを調査・観察することによって、自分たちの住む地域にも環境汚染の影響が出ていることを知り、環境に対する認識を深めさせる。
- (4) 町の自然・環境の一端を知ることによって、自然の大切さを感じ取り、自然と共存していく環境保全の態度を養う。

このように、自分たちの住んでいる地域への認識を深め、生徒自らにテーマを設定させ調べさせ追求させることにより、町の自然環境を知り、自然に積極的に関わろうとする態度や身近な環境を保全しようとする態度を身に付けさせたい。

3. 指導計画

- (1) 選択理科を受講する生徒は、自然現象への関心・意欲・態度が備わっていると考えて、ガイダンス・学習会を簡単に済ませがちである。しかし、

受講する生徒の関心の方向やその程度にかなり質的な違いが見られる実態から考えて、ガイダンス・学習会を丁寧に行う。(4月～6月)

(2) 1グループを7～9人に編成し、3グループに分け、年間(35時間)を通して1つの課題に取り組ませる。

(3) 環境調査活動は夏休みに行うものとし、その実施方法や日程については7月の選択教科の授業で生徒主体的に計画させる。

(4) 11月に研究結果の発表会をもつ。発表会に向けた準備は9月から11月までの選択理科の授業または放課後に行うものとする。

4. まとめ

(1) 大気調査を通して町の環境の変化をとらえさせた。

(2) 町に縦貫道ができて生活が便利になる反面、不都合や問題点がないか考えさせた。

(3) 今の環境や命を大切にするにはなにが必要なのか考えさせた。

以上にあげた3点について考えさせ、人間を取り巻く自然や社会などの環境及び人間生活に対する認識を深めるとともに、互いに相手の立場になって物事を考え行動できる人材の育成をはかった。

5. おわりに

今回の取り組みで、生徒たちは自然や環境について強い興味や関心を示しており、期待以上に主体的に係わることができた。大気調査で町や道路沿いに二酸化窒素のバックを着ける様子や各地点の二酸化窒素の量を測定する様子は、普段見せたことのない生き生きとした表情で精一杯取り組んでいた。

このような環境教育の取り組みを進めるなかで、一つは、知識より智恵・思考力を養成することの大切さを感じとった。二つに、課題に主体的に取り組む力を培う、問題解決能力の育成である。三つに、生徒たちに「やって良かった!」という達

成の喜びを感じとらせる事の大切さを感じた。

今回、これらの調査や実践を通して環境保護や
保全に興味や関心を持ち始めた生徒も多く、美し

く住みよい町づくりへの意識づけができたように
思われる。